

# 授業科目 発達障害作業療法学

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	作業
永井 洋一、押木 利英子		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】					
発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び、子どもと家族の生活に密着した治療目標、治療活動を立案するための基礎的能力を身につける。					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】					
1. 発達障害に対する作業療法の原理を説明できる					
2. 発達障害に対する作業療法の主な治療理論を説明できる					
3. 子どものライフステージに特有な作業遂行について、治療目標と関連づけて説明できる					
4. 脳性麻痺児に対する神経発達学的治療の原理が説明できる					
5. 精神発達遅滞児の一般的問題点と作業療法の目標が説明できる					
6. 整形外科的疾患（骨・筋・関節）を持つ発達障害児の作業療法治療目標が説明できる					
7. 自閉症や学習障害に対する作業療法の目標について説明できる					
8. 重症心身障害児に対する作業療法の原理と方法を説明できる					
9. 発達障害児に関連する法律・福祉制度の概要について説明できる					
10. 地域療育の理念及びチームアプローチの原則について説明できる					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	発達障害の作業療法：治療の原理			1	永井
2	発達障害の作業療法：治療理論			2	＃
3	ライフステージと作業遂行の課題			3	＃、小テスト1
4	神経発達学的治療概論			4	押木
5	脳性麻痺児の作業療法(1)			4	永井
6	＃ (2)			4	＃
7	精神発達遅滞の作業療法(1)			5	＃、小テスト2
8	＃ (2)			5	＃
9	重度心身障害児の作業療法			3, 8	＃
10	整形外科的疾患を持つ子どもの作業療法			3, 8	＃
11	軽度発達障害児の作業療法(1)			3, 6,	＃
12	軽度発達障害児の作業療法(2)			7	＃
13	自閉症の理解と作業療法			7	＃, 小テスト3
14	発達障害に関連する法律・福祉制度、チームアプローチ			9, 10	＃
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書		日本作業療法士協会：作業治療学3「発達障害」第2版、協同医学出版社、1999、¥3,400+税（購入済み） 発達障害と作業療法〔実践編〕、岩崎、岸本：三輪書店、2001、¥3,300+税			
参考書		脳性麻痺児の家庭療育（原著第3版）、Finnie, N.R.（鈴木、梶浦訳）、医歯薬出版、1999、¥3,500+税			
その他の資料		授業時に資料を配付する			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
出席：10%、 課題発表：30%、 小テスト：10%、 期末試験：50%			発達障害作業療法評価学・同演習の単位を修得していなければならない		